

## 令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和 4年 1月 18日

国際交流推進センター長 殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	International Seminar on Gall Midge-Fungal Relationships		
2. 事業責任者 (申請者)	徳田 誠	3. 所属・職名	農学部・准教授
4. 開催期間	令和 4年 1月 7日 ~ 令和 4年 1月 7日		
5. 参加者数 ※参加者名簿(様式任意)を添付	参加者数 <u>37</u> 名 うち、外国人数 <u>17</u> 名、学生数 <u>10</u> 名 (修士課程以上)		
6. 支援金額	金額 <u>80,000</u> 円		
7. 招待講師	所属 <u>慶北大学校(韓国)</u> 職名 <u>助教</u> 氏名 <u>Ikuju Park</u>  所属 <u>国立生物資源研究所(韓国)</u> 職名 <u>研究員</u> 氏名 <u>Wanggyu Kim</u>  所属 <u>国立中興大学(台湾)</u> 職名 <u>教授</u> 氏名 <u>Man-Miao Yang</u>  所属 <u>Council for Agricultural and Economics Research (イタリア)</u> 職名 <u>Senior Researcher</u> 氏名 <u>Rosario Nicoletti</u>		
8. 謝金支出額	金額 <u>80,000</u> 円		
9. 国際研究集会の内容	<p>昆虫類は陸上生態系において最も適応放散した分類群であるが、中でもタマバエ科は種多様性が著しく高く、1つの科で180万種が存在するという驚くべき試算もある。タマバエ科に関する研究は植食性の種を中心に展開されてきたが、申請者らは近年、菌食性のタマバエに着目し、未開拓の生物多様性を解明するための研究に取り組んでいる。今後のこの分野での国際的な共同研究を促進するため、海外で当該分野の研究に取り組んでいる研究者らを招待して最新知見を共有し、将来の共同研究を見据えた今後の展望について議論した。</p>		
10. 特記すべき成果・波及効果	<p>話題提供者からタマバエ科の興味深い生態や菌類との関係性について最新知見が紹介され、参加者との間で活発な議論がなされた。祖先的な亜科における腐食性種の生態解明の必要性や菌食性種との関係の進化過程、派生的な亜科でアンブロシアゴールを形成するウロコタマバエ族とハリオタマバエ族における比較研究の必要性、とくに共生糸状菌が寄生範囲や生活史に及ぼす影響など、今後必要とされる研究に関して、参加者間で熱心な議論がなされた。今回のオンライン国際セミナーを契機として今後も情報交換を続け、近い将来の研究予算獲得と共同研究の推進を模索することで意見が一致し、国際共同研究の基盤形成に大きな成果が得られた。</p>		

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。